

複数回開花するケナシヤブデマリ

櫻井幸枝

晩秋になると、樹木に季節はずれの花が咲いたという話題を目にすることがある。野外でよく見かける印象があるのはタニウツギだろうか、ピンクの花が枝先に少し咲いているのを見かけたりする。本来5月頃開花するタニウツギが晩秋に咲くのは確かに季節はずれで、一般に「返り咲き」といわれる現象にあたると思う。この言葉について、国語辞典では「時節が過ぎてからまた花が咲く」とあり本来の開花期の他に開花することを指すようだ。ただ「フユザクラ」など、もともと2回の花期をもつ種類などはこれにはあたらないだろう。園芸関係のサイトなどを見ると、複数回花をつける性質を表す言葉がいくつかあって「返り咲き」の他、「繰り返し咲き」「四季咲き」などである。園芸品には、花を大きく・多く・長く、の他に繰り返しつける性質も喜ばれることがあるのだろう、ここではそれぞれの細かい区別については引用しないが、中でも「四季咲き」というのは花を選定すればその都度新しい花をつける性質だということ、絶えず花をつけることをアピールしているようだ。

じっくりと時間をかけて調べたことは無いので、予測ではあるが、上記のタニウツギのように晩秋に見られる返り咲きは、越冬のための花芽が何かのきっかけで芽吹き開花してしまうのが原因だと考えられる。樹木の越冬芽の形成時期は、細かく調べたことはなくそのようなデータがそろっているのかわからないが、キブシヤツノハシバミでは夏休みに行う観察会ですでに見ることができるから、7月くらいにはつくれ始めることがわかる。

今回報告するのは、ケナシヤブデマリの「返り咲き」で、同じ個体で2007年と2009年の2回、同じ現象を観察したケースである。このケースでは残念ながら春の開花を確認していないが、花期のずれと、同じ個体に果実と花が同時に見られたことから「返り咲き」であることを確認したものである。

場所は長岡市内、鉢伏町付近の比較的傾斜のあるスギ林で所々に竹が混ざって生えている。周囲は田畑、車道などがあり、ケナシヤブデマリは林縁近くにある。北向きの斜面の下方、道路に面しているため定期的に除草されることもあり、日当たりはよい。

最初の記録は2007年7月22日に撮影した画像で、白い装飾花がよく目についた(写真1)。観察地はそれほど雪解けが遅れる場所でもなく、この観察地付近の悠久山

で5月頃には開花するので、ケナシヤブデマリにしては少し遅い開花ということになる。何故かと疑問に思ったが、よく見ると、近くの枝には赤くて未熟だが果実もついている。春に一度開花して、約2-3ヵ月後にもう一度開花したことになるのである。

そして、この時は「花と果実が同時に見られる」ということで、変わった現象もあると思って写真をとっていたのだが、2年後の2009年7月24日、同じ現象を確認した(写真2)。おそらく同じ個体である。



写真1 同じ枝の左側に果実、右側に花がある
(2007年7月22日撮影)

疑問は、何故、開花してから2ヶ月足らずの短期間で、未熟な果実を持ったままで再度開花したのかという点である。7月に樹木全体で開花している(写真3)ことから、春から徐々に開花していった可能性は低いと推測される



写真2 画像中央奥に果実、左側に花がある
(2009年7月24日撮影)

が、春に咲かなかった花芽が残って開花、の可能性はあるだろうか。

花に比べ果実が少ないのは、春に開花した花が少なかったのか、開花後に結実しなかった花序が落ちたのか、どちらかであると考えられる。

2008年の記録を見たが画像は見当たらず、2010年はなかなか調査に出かけられなかったこともあり残念ながら記録していない。毎年見られる現象なのか、春・夏以外の開花があるのかなど、また、どのようなしくみなのかについても、長く見ていきたいと思う。

参考文献

「新潟県長岡市悠久山の植物」西澤暢茂・安達英樹・西澤知江・西山邦夫 長岡市立科学博物館研究報告第31号 長岡市立科学博物館 1996



写真3 木全体で開花が見られる、果実は所々に見られる 2007年7月22日撮影

夏月 日 業斤 聞

2010年(平成22年)12月4日 土曜日

■「里地里山法」が成立

地域の生態系保全に取り組む市民団体と行政機関などの連携を強める生物多様性保全活動促進法案が3日午後、衆院本会議で可決、成立した。自治体と市民団体が協力して、手入れが行き届かない里山の管理や、シカによる農作物の食害防止などを促す行動計画をつくることなどを定めている。同法の制定は、生物多様性条約第10回締約国会議(国連地球生きもの会議)の名古屋市での開催をきっかけに議論が始まった。通称名は「里地里山法」。自治体に対して、地域の自然に詳しいNPOから生態系の保全方法について提案を受けることや、関係者の情報交換のための協議会を設置することを促す。